



2024年6月

石川県平和運動センター

隠されている志賀原発の **惨状**

北陸電力の「安全である」はうそ

岸田政権・規制委員会も石川県も、これを追認！

すべての原発を廃炉にするために！

24年元旦に志賀原発を襲った能登半島大地震 内陸型で過去最大



志賀町



2022. 12. 12 志賀原発全景 毎日新聞本社へリ

最大震度7 (M7.6)、石川県内の死者260人、
負傷者1,540人、家屋倒損壊74,110棟 (5月末)

☆4つの断層帯が連動して150kmに及んだ。

北電はこれらの断層帯を96kmに縮め連動もしないと主張。

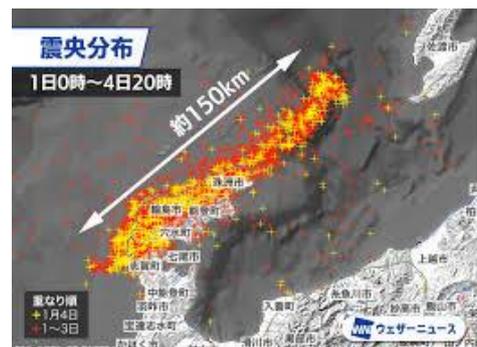
☆富来川南岸断層 (志賀原発の北9km) が3km以上にわたってずれる (新知見)。

この断層は、本震源より約20km南に位置し、従来の学説では「5km以上離れば連動しない」と言われていたもの。

☆大地震は警告されていた！

2012年後藤秀昭氏の研究調査 (「日本地理学会」広島大学)

能登半島の北岸に沿ってほぼ東西に走る巨大な活断層の存在を実証。今回の地震の震源域とM7.6を予測していた。



地震で4mも隆起した輪島市の鹿磯漁港

県、北電もこれを無視

2020年作成の「全国地震動予測地図」では能登半島沖は全く反映されず、石川県の2020年から30年間におこる震度6以上の地震の確率は、「0.1%～3%未満」としていた。石川県の防災対策指針は、1998年作成のまま25年間、見直されなかった。国も県も北電もこの予測を、志賀原発の再稼働に支障が出ると考え無視したのでしょうか！

志賀原発の建屋内外は大きく損傷している 地震に耐えられない

☆一部の固有周期帯で基準地震動を超えた

(安全を保てる振動の上限値)

1号機 957ガル (基準は918ガル)

2号機 871ガル (基準は846ガル)

☆志賀原発の異常の数々

(1) 外部電源の一部喪失

1号機 起動変圧器故障

2号機 主変圧器故障

この変圧器の耐震性は一般の建造物と同じCクラス。

いまだ電源は回復しておらず早くても8月。

(2) 非常用発電機1基、試運転中に自動停止 (1/17)

命綱のはずの非常用電源が自動停止とは！

(3) 使用済核燃料プールの冷却ポンプ一時停止

→冷却できなければ1789体の使用済核燃料棒は1号機で17日、2号機は29日で沸騰。

蒸気とともに放射性物質が放出される一大事！



起、港・荷揚場で最大35cm沈下など。

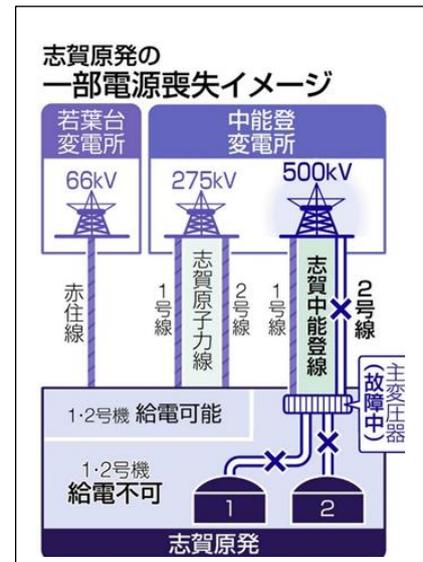
☆ 北陸電力はこれ以外にも隠蔽、修正、過小報告

① 後日訂正された情報

火災発生 (自動消火設備作動) →翌日「火災なし」と訂正

潮位計に変動なし→津波は複数回訂正→4mへ再訂正

油漏れい量 3,500→19,800へ訂正



(4) 変圧器の損傷 (絶縁油もれ)

1号機 起動変圧器からの油もれ (3,600)

2号機 主変圧器からの油もれ (19,800)

→わずか震度5弱で壊れる外部電源、これ以上ならば全電源喪失の危険性が大きい！

(5) 原発直下の「活断層」が動いたのか？

敷地内のあちこちで異常、79ヶ所で段

差、沈下、地面ずれ、海岸線で約30cm隆



油は全て建物内に留まる→1月7日、海へ流出と訂正
敷地内の段差・割れ、当初4ヶ所→79ヶ所に訂正

② 当初公表されなかった情報

外部電源喪失・使用済核燃料冷却機能一時喪失・モニタリングポスト送信不可
想定を超えた加速度・構内の段差

(4月26日になって発表) 2号機の発電機やタービン羽根に接触痕や破損、変形

③ マスコミへの「公開」は、うそ！

記者一人に職員二人が張り付き、スマホを取り上げ、カメラに写せない、見せない箇所多数。これでは「公開」ではなく、「制限付き公開」でしかない。

こんな北陸電力が「安全」と言っても信用できるのでしょうか！

能登半島地震の対応が鈍い原子力規制委員会

浮かび上がった課題

志賀原発で変圧器が壊れ、外部電源を一部喪失

⇒原発構内に耐震性の低い電気設備

安全上の影響はない

把握していない断層が動いた可能性

⇒他の原発の地震想定は十分か

分析に相当の時間がかかる

空間放射線量の欠測や家屋倒壊、道路の寸断

⇒原子力災害対策指針の避難の前提崩れる

線量測定はドローンなどでもできる
(指針の見直しに言及せず)

山中伸介
規制委
委員長



もっとやばい！ 山中伸介規制委員長！

外部電源の「要」である変圧器（トランス）は、本体と配管・接続部が破損したため、絶縁油が漏出し外部電源を一部喪失した。

これを規制委員会の山中委員長は「安全上問題ない」と開き直った。

また、把握していない活断層が動いたことには「分析に時間がかかる」と責任を回避し、曖昧な返答に終始した。

モニタリングポストの故障は避難計画の前提が崩れたことを意味する。これに対して（避難計画を見直す必要があると言及せず）、測定はドローンでもできると居直った。

避難計画は破綻

☆避難できないことが明らかとなった

(1) 5 km圏内は“直ちに避難”

避難道路が不通（隆起、陥没、土砂崩れ）

海、空からの避難も不可能

(2) 5 km～30 km圏内は“まず屋内退避し順次避難”

家屋の倒壊・損壊で屋内退避は不可能

放射線防護施設ですら6施設が損傷

放射能プルームの侵入を防ぐ密室が破損、上下水道も遮断された。

→ 放射能汚染・被ばくから逃れられない



30 km圏内の孤立集落＝8集落 435人 解消まで最長 16日。とても逃げられない。

(3) モニタリングポストのデータを送信できず

30 km圏内 116局のうち、原発北側の 18局が送信不可

→ 放射線量が測れないため、避難の経路や時間、方向を示すことができず、避難指示が出せない。

(4) 自治体・消防・警察は、原子力災害に対応する余裕なし 自らも被災し、指示する人も体制も作れない。



県民の声 **あんな避難計画を信じたら殺される！**

☆私たちは何度も警告してきた！

平和運動センターなどの抗議声明 2023.11.23（石川県原子力防災訓練に対して）

- ・訓練では志賀原発敷地外への影響は1か所の道路の寸断のみであり、明らかに地震被害を過少評価している。
- ・実際には多くの家屋が倒壊し、下敷きになった住民がいるかもしれない。死傷者も複数箇所が発生し、火災発生もあり得る。道路の損壊も広範囲に及ぶ。津波被害も発生しているかもしれない。
- ・周辺市町では災害対策本部を設置しているはずである。行政や消防、警察はこうした事態への対応で奔走している。こうした中で原子力災害への対応がどこまで可能か。

国と石川県は、私たちの度重なる指摘と抗議を無視し、かたちだけの「避難訓練」を続けてきたのだ。原子力災害からの避難は不可能といわなければなりません。

志賀原発は“廃炉”しかありません！

「原発回帰」を進める岸田自・公政権のエネルギー政策とは？

大地震から2週間も経った1月14日、馳浩知事とともにようやく被災地を初視察した岸田文雄首相は、志賀原発について

再稼働を進める、その方針に変わりはない

と、無責任な姿勢を明らかにした。

能登半島地震の被害の凄まじさ、避難の困難さ、志賀原発の「危機」を目の当たりにしたのに！ 原発周辺の住民は「放射能にまみれろ」とでも言うのでしょうか。

☆政府は危険な原発をなぜ動かそうとするのでしょうか？

(1) 「原発はCO2削減に寄与する」って本当？

2023年2月 閣議決定

- ・原発の耐用年数を40年から60年超とし、再稼働を進める。

「GX 実現に向けた基本方針」 ・ 原発の新設を認め、最大限活用する。
 原発を自然エネルギーと同列に並べていいのでしょうか？

(2) 「今後、電力需要が増える」というキャンペーン

国の「エネルギー基本
 計画」を見直す議論始まる

・ 電気を大量に使う AI 用データセンターや半導体工場の新
 増設が進むので、産業部門の電力需要が大きく増える。

IT や半導体製造の巨大企業の利益のために、私たちの健康や命が危険にさらされてもいいの
 でしょうか？

☆核兵器開発の狙いも

原発の使用済核燃料を再処理してプルトニウムを大量に保有する日本は、既に世界では、潜
 在的な核保有国と言われており、自民党議員が「原子力技術を絶やさないために原発を動か
 す」、つまり、核兵器保有能力を保持し続けるということです。戦争被爆国が「核保有」を狙っ
 てよいのでしょうか？

ウクライナ、ガザの戦闘は止まず、欧米・中露の対立が激しさを増す中で、岸田政権
 はアメリカとの軍事一体化を進め、軍拡路線をひた走っています。

今こそ私たちは、反核、脱原発、改憲NO！反戦・平和の声を大きくあげていかなけ
 ればなりません。この声を、世界に広げようではありませんか。

6. 30「さよなら！志賀原発 全国集会in金沢」を成功させましょう！

石川県平和運動センター

Memo

〈写真集〉



スフィア基準どころかプランバシーも人権もない 避難経路に「そびえたつ」マンホール柱
「避難所」、そもそも逃げられない。

6. 実働組織による避難・救助の不可能について（現在の指針には欠如）

- 警察、消防、海上保安庁、自衛隊による陸路、海路、空路等による即時避難・救助は、いずれにおいても、複合災害発災時には望めないことが今回、明白になった。
- 石川県の原子力防災訓練ではヘリコプター利用の想定（①除染きれない住民を県立中央病院へ搬送、②孤立住民の避難）はあるが、**着陸できる場所は孤立集落には存在しない。道路寸断で集合場所（距離のある学校等）にたどり着けない。**
- 実際に、今回は志賀原発の30キロ圏内で400人が8日間孤立していた。

石川県珠洲市在住の北野進さん指



北陸電力志賀原発から北に約10キロの国道249号は、片側が大きく陥没し、通行できなくなっていた
=2024年1月5日午後、石川県志賀町、佐々木凌撮影

朝日新聞 <https://www.asahi.com/articles/ASS1Q6V3MS1QULBH00N.html>

能登地震で原発周辺400人8日間孤立 避難計画機能せぬおそれ

有料記事 能登半島地震
市野塊 2024年1月23日 6時00分

能登半島地震のあと、北陸電力志賀原発（石川県志賀町）の半径30キロ圏内で、最大8地区約400人が8日間孤立状態になっていたことがわかった。原発事故時には5キロ圏の住民は30キロ圏外に避難、5～30キロ圏はまず屋内退避し、放射線量が上がった場合に圏外に避難するが、この避難計画が機能しないおそれがある。

内閣府などによると・・・

